



株式会社 化学工業日報社
編集局長 殿

日頃より活発かつ公平な貴社報道活動に接して、化学工業会の一員として小規模業界ながら感謝致しております。

本日突然お便り申し上げますのは、過日貴紙に掲載されました記事についてです。

(8月24日付け)

記者の方にも申し上げましたが、私ども業界において大変大きな混乱を生じさせている内容であると申し上げておきます。

全体的に不満な内容ではありますが、私の説明が記者の方の理解をさせるまでに至っていなかったという反省がありますので、細かい点までは申し上げませんが以下の点の修正は何としても実現していただきたいと存じます。

香料に対する知識がある程度おありになる方であればご理解いただけると思いますのでよろしく御検討をお願い申し上げます。また、日本香料工業会としても貴紙読者の方々の誤解を解くべく自らのホームページに実情報告を近々掲載する予定です。

*** 「全成分開示」という報道についての訂正 ***

2008年度のグローバルな使用量調査に基づいて、IFRAが約3200の化粧品香料素材を公開したのは、米国顧客工業会の最終製品の成分を開示させようという動きに対して、グローバルに使用されている殆どの香料素材を明らかにすることで、香料の成分開示に替わるものとするものです。

日本では、日本の法規へのコンプライアンスの確認のため、公表された3200の素材の内、我が国で使用されているものを特定する作業を進めておりますが、これは日本香料工業会として全成分開示を行うという意味では全くありません。

また記事中に動物実験代替法が未確定と書かれていますが、これは化粧品原料の安全性試験法に係わる問題で、この記事に記載されているような直接香料の問題ではありません。

平成22年9月1日

日本香料工業会専務理事 今野 忠彦